学年／コース	高校1年生	教科／科目	選択音楽Ⅰ	

単元名	歌唱「Caro mio ben」	使用教材
単元の概要	・イタリア語の曲に親しみ、曲にふさわしい発声で歌う ・歌詞の意味を理解し、用語や記号を表現に生かして歌う	MOUSA1

到達目標/評価規準				単元内容
発展	A3 イタリア語の単語の意味や歌詞の内容を理解し、それらが音楽とつながっていることに気づく	B3 歌詞の内容を表現しながら演奏することができる	C3 曲の美しさを十分に表現し、人々に感動を与える演奏をすることができる	・イタリア語の発音と歌唱法(rの巻き舌など) ・歌詞の内容と音楽のつながりを理解する 【理解しておきたい用語や記号】 アクセント、フェルマータ、ppp、テンポ記号、装飾音
応用	A2 ・イタリア語の発音を理解し、正しく発音できる ・用語や記号を理解している	B2 ・イタリア語の特徴を捉え丁寧に発音することができる ・用語や記号を表現に生かすことができる	C2 用語や記号の指示を守りつつ、よりよい表現を模索し演奏することができる	
基礎	A1 ・曲を覚える ・歌唱の際の正しい姿勢、美しい発声を理解している	B1 イタリア語の曲にふさわしい、豊かな響きで歌うことができる	C1	〈留意点・評価〉 実技試験を行い、表現や演奏技術を評価する
	知識	活用	創造	

学年／コース	高校1年生	教科／科目	選択音楽Ⅰ	

単元名	トーンチャイム合奏「星に願いを」	使用教材
単元の概要	・トーンチャイムの特性を理解し、練習方法を工夫しよう ・互いの音をよく聴き合い、息の合った演奏をしよう	MOUSA1

到達目標/評価規準				単元内容
発展	A3	B3 姿勢を整えたり、打音の位置や高さをそろえたりするなど、より良い演奏を目指して工夫をする	C3 音と音の間に必要のない空白ができたり、ハーモニーに濁りが生じないように、音の橋渡しをスムーズに行う	・使用する楽器の正しい扱い方や構え方、打音や消音の方法を身につける ・実際に音を出して、最も音が響く打音方法を見つける ・強弱の付け方を研究する ・音と音の間に必要のない空白ができたり、ハーモニーに濁りが生じないように、音の橋渡しをスムーズに行う 【練習手順】 ・担当する音を決める。グループの人数と各音の打音回数を考慮しながら決める ・自分の担当する音にマーカー等で印を付ける ・より息の合った演奏を行うために、姿勢を整えたり打音の位置や高さをそろえたりするなどの工夫をする
応用	A2 音がよく響く打音方法を見つける	B2 自身が演奏する音の楽譜内での役割を認識し、それに合わせて強弱をつける	C2 周りの音をよく聞き、全体的なバランスを意識して演奏する	
基礎	A1 使用する楽器の正しい扱い方や構え方、打音や消音の方法を身につける	B1 担当する音を楽譜通りに鳴らし、曲を演奏する	C1	〈留意点・評価〉 グループごとの発表会を行い実技試験とする。また、練習記録を付けて、取り組み内容を評価する。
	知識	活用	創造	

学年／コース	高校1年生	教科／科目	選択音楽Ⅰ	

単元名	自由曲の練習と発表	使用教材
単元の概要	・自由に曲を選択し、より良い練習方法や表現方法を模索していく ・発表会を行い、音楽を愛好する心情を育む	各自で楽譜を選択

到達目標/評価規準				単元内容
発展	A3	B3 教員より適宜アドバイスを受け、完成度を上げていく	C3 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を養う	・各自の能力に合わせた難易度の曲を選択する ・使用する楽器やグループ構成を考える ・練習方法を探りながら、計画的に練習を進める ・教員より適宜アドバイスを受けながら、自身の演奏に足りない要素に気づき、完成度を上げていく ・各パートの音量や、各自の配置によっても音楽の雰囲気が変わることに気を配り工夫を行う ・より良い音楽表現を目指して練習を行う ・発表会では他グループの演奏を鑑賞し、良い点や改善点を考察することで各自の成長につなげていく ・人前で演奏する緊張感や喜びを経験する
応用	A2 楽曲に関するレポートを作成(作者、時代、構成、ジャンルなど)し、理解を深める	B2 練習毎の振り返りを生かし、練習方法を工夫していく	C2 表現方法などに関してグループ内で意見交換を行い、感性を磨く	
基礎	A1 基本的な音楽記号を理解し、楽譜を読むことができる	B1 ・各自の能力に合わせた難易度の曲を選択する ・練習方法を模索しながら、各自で練習を行う	C1 意志を持って音楽表現に取り組む	〈留意点・評価〉 ・完成度だけではなく、練習のプロセスを重視して評価を行う ・練習毎に練習記録を付け、進捗状況を意識して練習に取り組む
	知識	活用	創造	